

東日本大震災 緊急・復興支援活動レポート



Big Heart Project 全国のYMCAとともに

人々の心に寄り添い続ける支援をめざして。



2011年3月11日に東日本大震災が発生して以来、私たちYMCAは、「YMCA Big Heart Project」を展開してきました。

「YMCA Big Heart Project」は、津波による被災地、福島第一原発事故による放射能の影響を受けている地域、そして避難をしている方々が暮らす全国各地で、全国のYMCA・学生YMCA・ワイズメンズクラブが協力して行う、復興のための活動です。

私たちはこの活動に、2つの目標を掲げてきました。

1. 未来を創る子どもたちを育む

子どもや京都青年が、自分たちの「いのち」を守り、豊かな自然を愛する心を育む。
そして彼らが、未来を創る主人公となるよう、リーダーシップの育成に努める。

2. すべての「いのち」が光り輝くように

あらゆる世代の人びとのクオリティ・オブ・ライフの向上を支援する。
福島第一原発事故の影響から、子どもたちを守る努力を続ける。

英語で「思いやり」「やさしさ」を意味する「Big Heart」は、人々の心に寄り添い続けるというYMCAの支援の姿です。あれから7年。まだまだ続く道のりの「これから」を見据え、心を寄せ続けるために、この報告書を作成しました。

目次

1. 京都YMCAにおける緊急・復興支援の歩み	▶ p 3
2. サイドストーリー 石巻でのYMCAのはたらき	▶ p 8
3. 緊急・復興支援募金報告	▶ p10
あとがき	▶ p11

1 京都 YMCA における緊急・復興支援の歩み

京都 YMCA が今日まで取り組んでいる活動についてご紹介します。

2011 年 発災時 ―― 各委員会の対応

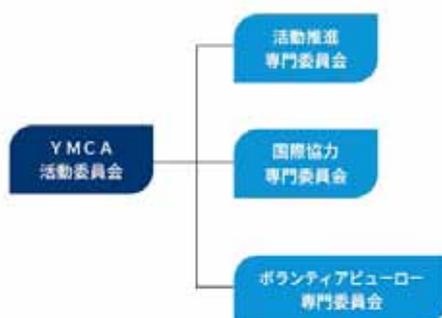
会員活動を担う「活動委員会」では、発災直後の 2011 年 3 月 17 日に緊急会議を開き、緊急支援体制を協議。活動委員会の下に設けられた各専門委員会が分担して支援活動に当たることとし、物資の調達と輸送を「活動推進専門委員会」、緊急支援街頭募金を「国際協力専門委員会」、ボランティアに関する担当を「ボランティアビューロー専門委員会」が受け持つこととした。併せて、第 1 回緊急支援街頭募金を 2011 年 3 月 27 日に実施することを決定した。

ポジティブネットを創る「委員会」

京都 YMCA は、ボランティアである会員がスタッフとともに委員会を組織し、積極的に運営に関わっている会員組織である。会員活動を担う活動委員会の管轄下に設けられた各専門委員会が地域社会の課題に対し、それぞれの分野を担当し、公益活動を行っている。

日頃の活動で培われた委員会の組織力は、大規模災害などの緊急時にも発揮されており、東日本大震災発災時にも迅速な対応に繋がった。

会員活動を担う委員会組織図



京都府災害ボランティアセンターとの協働

ボランティアビューロー専門委員会は、2011 年 3 月 13 日に発足した京都府災害ボランティアセンターの会合に出席し、4 月には委員 3 名を同センターに派遣するなど連携して被災地支援に取り組んだ。

正会員登録団体として、平常時から運営委員会やセンターが行う研修に参加し、災害時には迅速に協働体制が取れるよう関係構築に努めている。

interview

一人ひとりの願いを繋ぐ

ボランティアビューロー専門委員会委員長 (当時) 船木 順司 さん

2011 年 3 月 11 日金曜日 14 時 46 分震源地三陸沖 M 7.9 最大震度 7 の地震が発生しました。私は京都の地においてテレビで地震速報や津波での悲惨な被害映像を言葉なく見入っていたことを今も思い出します。震災直後より日本 YMCA 同盟が起点となり現地の情報を収集、全国の YMCA に逐次報告されました。各 YMCA では緊急募金活動や現地への職員を派遣し、今できる支援を全国の YMCA では実施され今なお続けてられています。



私が所属していた京都 YMCA ボランティアビューロー専門委員会では、被災地での支援活動に向けボランティア派遣計画を始めました。震災当初は、現地での活動は受け入れ体制の問題、二次災害の危険性により控えていましたが、同年 7 月以降、多くのボランティアを現地に派遣することができました。

7 月 15 日第 1 回支援活動に参加し、私達が最初にボランティアバスを降りたのは山元町坂元駅周辺でした。あたり一面建物はなく瓦礫ばかり、静けさの中うっすらと立ち上る砂ぼこり、地震とその後の津波の凄まじさを物語る光景に唖然としました。私達は仙台 YMCA を活動拠点とし、イチゴ農園にてボランティア活動を行いました。ぬかるみの中の慣れない作業は重労働ではありましたが、被災地の惨状を目の当たりにすれば、疲れた中でも、一般公募でご参加くださった皆さんと声を掛け合いながら力を出し切ることができました。「私たちの活動はたった 1 つの点にしか過ぎない。しかし、この点が繋がり線になる。この線が集まり面になる。」それぞれが復興への強い思いと願いを込め参加してくださったボランティアの皆さんには、自身の行動が復興の一助をなすことを肌で感じていただけたと思っています。その後 4 回にわたり現地へのボランティア派遣を行う中、徐々に進んでいく「復興」を感じた支援活動でした。

今なお苦しみの中におられる被災者の皆様の 1 日も早い平安を願い、京都 YMCA では支援活動を続けてまいります。

2011 年～2012 年 京都から被災地へ ―― 災害ボランティア派遣

被災された方々に寄り添い、ともに手を動かした災害ボランティア活動。2011 年から 2012 年にかけて、多くのボランティアが京都 YMCA を通して現地に赴いた。被災地と多くのボランティアの思いを繋ぎ、一人ひとりが「自分にできること」を見つけるきっかけとなった。

2011 年度

- 3月14日～15日 神崎総主事（当時）宮城県仙台市入り、現地の情報収集
- 4月3日～10日 会員1名を仙台YMCAへ派遣 仙台市災害ボランティアセンターでの支援活動
- 4月18日～23日 職員2名、ボランティアリーダー3名を仙台YMCAに派遣
- 5月4日～7日 神崎総主事、岩手県・宮古市、仙台YMCA視察
- 6月 ボランティアビューロー専門委員1名を仙台YMCAへ派遣、仙台市災害ボランティアセンターでの支援活動
- 7月15日～18日 第1回復興支援ボランティア派遣 宮城県亶理郡山元町に31名を派遣
- 7月26日～30日 中高生ボランティアワーク派遣 宮城県七ヶ浜町に5名を派遣（【中】4名、【高】1名）
- 9月16日～19日 第2回復興支援ボランティア派遣 宮城県亶理郡山元町に29名を派遣
- 12月2日～5日 第3回復興支援ボランティア派遣 宮城県南三陸町戸倉地区に32名を派遣

2012 年度

- 7月13日～16日 第4回復興支援ボランティア派遣 2011年に新設されたYMCA石巻支援センターを拠点に活動15名を派遣
- 10月27日、28日 ボランティアビューロー専門委員が盛岡YMCAへ読み聞かせの会のボランティアスタッフとして参加

無我夢中

岩佐いちご農園 岩佐 清さん

震災の翌年に採れた
岩佐農園のいちご

2011年3月11日東日本大震災で生活を奪われ、元の生活に戻るため畑の泥かき、草むしり、プール掘、ハウス建て…畑の仕事の全てでボランティアの方々にお手伝いいただき、今はもとの畑でいちごの仕事ができています。いちごの栽培に一番大事な「水」。当時は、震災の影響で地下水の塩分濃度が高くなってしまっていました。そこで、プールを掘り、地下水を水道水で薄めていちごに使うことになりました。ボランティアの方々が、かたい地面をスコップで掘ってくださりプールが完成、大変助かりました。

ところがしばらくすると、また塩分濃度が上がってしまい、プールの水が使えないことに…今度は地下50mのボーリング工事で水をくみ上げて使うことになりました。この時も全国のYMCAの皆様の支援で工事をする事ができ、今は地下水100%でいちご栽培ができています。

お手伝いしてくださった皆様のことを思い、「赤いいちごを摘めるのも皆さんのおかげ」と家族で話しながら、毎日いちごを摘んでいます。

無我夢中で前に進もうとしている私たちに寄り添い、応援してくださる皆様のおかげで、あっという間に6年8ヵ月の月日が過ぎました。本当に、たくさんの感謝の気持ちでいっぱいです。

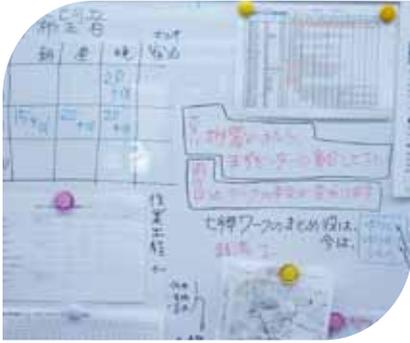


interview

発災当時の現地の状況

仙台 YMCA は、仙台市社会福祉協議会からの要請を受けて、宮城野区と若林区の災害ボランティアセンターへスタッフを派遣した。京都を含む各地の YMCA から派遣されたボランティア、スタッフもボランティアセンター運営支援に加わった。

現地での活動は、日々起る変化と課題に向き合いながら、現状を冷静に見守りながら気持ちに寄り添うことが求められる活動となった。



支援活動の連絡ボード



京都 YMCA から派遣されたボランティア



活動先の方々からいただいたメッセージ

2011年～2016年 京都における支援活動

京都 YMCA は、発災から1ヵ月余りが経過した2017年4月から、被災地へのボランティア派遣と並行して、京都における支援活動が始まった。復旧～生活支援～復興と現地の状況の変化に従って、物資などの緊急支援から、心の癒しや子どもたちのケアへ支援内容を移行しながら、京都ができる支援を模索しながらの活動が続いている。その一つとして、2014年からは、夏休みに福島第一原発事故の影響でいまだ生活に様々な制限がある福島県在住の子どもたちとそのご家族を招いて「リフレッシュファミリーキャンプ」を実施している。

2011年度

- 4月 8日 被災地の現状を知り支援のあり方を考える「被災者が語る震災」を開催。
- 4月 29日 家具・家電等の配送ボランティア：学生ボランティアが集めた支援品を在京被災者に届けた。写真①▶
- 7月～8月 サマーキャンプへの子ども達受け入れ。約20名が参加。
- 8月 7日 ファミリーデイキャンプ実施：在京被災者を対象に京都 YMCA リトリートセンターにて実施。35名が参加。写真②▶
- 11月 23日 リトリートセンターオータムフェスタへの招待： 避難者による東北の芋煮の出店。50名が参加。
- 11月～12月 暖房器具寄贈を市民へ呼びかけ。集められた暖房器具27点と、暖房器具代として寄せられた寄附2万円を避難者に届ける。
- 1月～3月 ウインター＆スプリングプログラムへの子ども達受け入れ。



①



②

京都 YMCA における緊急・復興支援の歩み

2012 年度

- 7月～8月 サマーキャンプへの子ども達受け入れ。
- 7月21日 京都橘大学主催「福島・山科親子キャンプ」協力：1日のプログラムを受け持ち実施。写真③▶
- 7月29日～8月1日 被災した子供たちを対象に、福島に離れて暮らす家族や友だちとの再会プロジェクト「こどもたちの夢の夏プログラム」協力：実行委員会への参画、当日ボランティアスタッフの派遣。
- 11月25日 リトリートセンターオータムフェスタに福島からの避難者を招待。
- 12月～3月 冬期プログラムに被災者の子どもたちの参加費補助。



③

2013 年度

- 4月13日 大人と子供のための読みきかせの会後援 in Kyoto 開催。約400名が参加。写真④▶
- 5月 京都YMCAのパートナーYMCAである韓国・仁川YMCAが、震災復興支援のための「子どもオーケストラ and ヨーデル」を公演。
- 7月～8月 サマープログラムに参加する子ども達への参加費補助。
- 8月4日～8月7日 「こどもたちの夢の夏プログラム」協力：実行委員会への参画、当日ボランティアスタッフの派遣。(2012年同様)
- 10月 南三陸エコプランタープロジェクト協力。
- 1月～3月 ウィンタープログラムに参加する子ども達への参加費補助。
- 3月 京都YMCA登録ボランティアグループVOLATZとボランティアビューロー専門委員会が3.11メモリアル展示を三条本館で行う。写真⑤▶



④

京都の思い出

リフレッシュファミリーキャンプ参加者より

interview

2014年8月第1回のリフレッシュファミリーキャンプに参加しました。最初は抽選に外れてしまい、「きっと人気があって倍率も高かったんだろうね。」などと家族で話していました。ところが「キャンセルが出たので、ご参加いかがでしょうか？」と嬉しい電話をいただき、急遽参加できることになりました。

キャンプ初日の顔合わせ。我が家以外は幼児さんから小学生の子ども達のご家族で年齢層が違い、少し心配な気持ちがありましたが、3家族だけの参加で、とても打ち解けて過ごすことができました。

キャンプ中、台風による避難勧告で急遽ホテルに移動することになりました。ボランティアやスタッフの皆さんも、ご自分のご家族のことが心配だったでしょうに、私たち参加者が安心できるようにと、至れり尽くせりに対応してくださり、本当に感謝しております。台風直撃というとてもインパクトのある出来事で、より一層、人の優しさを感じたキャンプでした。

また、娘にとってこのキャンプでボランティアの学生さんとたくさん話せたことが、自分の将来を考える良い機会になったようです。キャンプ参加当時中学2年だった娘は、受験勉強をがんばり希望の高校に合格し、現在高校2年になりました。

専業主婦だった私も働き始め、京都に行ったあとは、家族で旅行に行く時間もなかなか取れなくなりました。私たち家族にとって、素晴らしい時間を頂いたこと、改めて感謝しております。

2014 年度

- 8月 福島県在住の親子を対象とした保養キャンプ「リフレッシュファミリーキャンプ」を開催。
3家族9名が参加。写真⑥▶
- 7月～8月 サマープログラムに参加する子ども達への参加費補助。
- 10月 横浜YMCAが進めるチューリップの球根の売上で被災地に花の苗を届ける「南三陸エコプランタープロジェクト」への協力。
- 3月 VOLATZによる3.11メモリアル展示。(2013年度より継続)



⑤

2013年度の3.11メモリアル展示。三条本館壁面を使い、被災地を襲った津波の高さを再現した。

2015 年度

- 7月 「リフレッシュファミリーキャンプ」を開催。
4家族12名が参加。(2014年度から継続)
- 11月 「南三陸エコプランタープロジェクト」への協力。
(2014年度から継続)



⑥

2016 年度

- 8月 「リフレッシュファミリーキャンプ」を開催。7家族22名が参加。(2014年度から継続)

ユースの「想い」と「チカラ」を届ける

京都YMCAは、未来の地域社会と世界を支える存在としてユース世代の力を信じている。ユース世代を、「さまざまな課題を抱える現代社会を希望あるものに変えていく存在」と位置づけ、以下の2点をユース育成のポイントと定めている。

- ① ユースが主体的に生き方を選択していける環境を提供すること
- ② ひとりひとりがポジティブネットをつくる担い手としての意識をもつこと

震災支援活動においてもユース世代が積極的にボランティア活動に参加し、「目の前の課題に真摯に向き合う」「子どもたちの良き理解者であり目標である」といったユースの強みが活かされた。



京都YMCA 中高生メンバーによるワークキャンプ

保養キャンプ「リフレッシュファミリーキャンプ」

2 サイドストーリー 石巻での YMCA のはたらき

全国の各 YMCA では、連携を取りながら現在もそれぞれができる支援を続けています。

石巻で YMCA の拠点ができるまで ▶▶ 課題に取り組み、地域に根を張る

東京 YMCA は震災発生以降、石巻・女川を中心に地道な支援活動が続ける中で、地元被災者の皆さんや、教会、学校の先生などとの信頼関係を大事に築いてきた。仙台 YMCA と協働し、さらに細かいニーズに応え地域に根ざした支援活動を展開するため、2011 年 11 月、YMCA 石巻支援センターが開設された。

interview

石巻での活動

YMCA 石巻支援センター元駐在スタッフ／現日本 YMCA 同盟スタッフ
伊藤 剛士 さん

2011 年 11 月に宮城県石巻市に開設された YMCA 石巻支援センターでは、のべ 3,400 人以上のボランティアを受け入れ、地域に根差した復興支援活動を行ってきました。

石巻の活動には三つの柱があります。一つ目はワークキャンプ。被災した家屋の泥かき、被災した漁師の牡蠣・ワカメの養殖支援などを行いました。2012 年 7 月には京都 YMCA ボランティアビューローの皆さまに市街地のかまぼこ工場の側溝の泥かきをして頂いたことを思い出します。二つ目は子ども支援プログラム。震災により学校や地域の公園等が被災し子どもたちの遊び場不足が深刻でしたので、石巻の YMCA では全国のユースボランティアを定期的に受け入れ、小学校内でのプール指導や学童保育でのプログラム、また地域の仮設商店街の集会所を拠点に学習支援・遊び場プログラムを行いました。三つ目はコミュニティ支援プログラム。主に仮設住宅や高齢者施設で、地元自治会と連携し、炊き出しや歌声プログラムといったレクリエーション交流会を行いました。

YMCA の支援活動の特徴の一つは、普段から各地域の YMCA で活動している人々（会員・ボランティア・スタッフなど）が、その経験や才能を被災地でも活かして下さることです。ユースボランティアによる子どもプログラムや会員ボランティアによる歌声プログラムなどは、参加者やその家族はもちろん、地域自治会や行政の方々からも高い評価を頂きました。

そして地元の人々は「全国・世界からたくさんの方が YMCA を通して石巻の私たちに会いに来てくださる。それに何よりも励まされる」と仰っていました。振り返れば、私自身も全国の YMCA の様々な応援に支えられ、被災地での役割を全うできたのだと思います。



2017 年、仙台・石巻地域の視察を通して

京都 YMCA では、2017 年 10 月被災地の現在を捉え直すことを目的に会員 1 名を派遣し、現地視察を行った。

2 日間の訪問で、仙台 YMCA を拠点に、発災当初ボランティアを派遣した岩佐農園を含む山元町を訪問したほか、石巻ワイズメンズクラブが携わる「津波教え石」落成式に参加した。

山元町の JR 山下駅（発災当時）▶



▲ 新設された駅舎



石巻でのワイズメンズクラブ誕生 ▶▶

地域に根差した活動が、豊かなつながりを創り出す

YMCA 石巻支援センターの活動が大きなきっかけとなり、YMCA を支え、復興支援や青少年の健全育成、地域奉仕活動に取り組む石巻広域ワイズメンズクラブが 2016 年に結成された。現在、クラブは仙台 YMCA と協働しながら、地元の学校や企業のご協力を得て「津波の教え石」建立などの地域奉仕活動に精力的に取り組んでいる。

津波教え石のデザイン・碑文を考案した茨浜中学校生徒の皆さん ▶



interview

仲間と共に地域に生きる

石巻広域ワイズメンズクラブ 会長 日野 峻 さん

2016 年 5 月 28 日「石巻広域ワイズメンズクラブ」がチャーター（設立）いたしました。東日本大震災の大規模な被災地である石巻地区において、私たちは国内外からのさまざまな支援活動を目の当たりにしました。今、受動から能動へと自ら舵を切ること、地域住民が自ら立ち上がり組織化すること、「人は幸せになるために生まれてきた（福幸）」という理念・理想を実現させるために活動する同志が集まりこのクラブが結成されたことの意義は大変大きいと考えています。



「天の声、地の叫び、人の心」と言われる通り、設立には、親クラブである仙台の 3 つのワイズメンズクラブ、仙台 YMCA の皆様をはじめ、国内外の YMCA に集う皆様からのお力添えをいただきました。もともと別のボランティア組織とあるプロジェクトを進めていた際、共に活動する仲間の中に、仙台のワイズメン、メネット（ワイズメンの配偶者）の方がおられ、後のクラブ設立のきっかけとなる出会いとなりました。さらに、約 20 年も前から石巻地域にクラブが必要だと思っていたという盛岡のワイズメン、メネットとも出会い、出会いの連続からつながりが広がり、ワイズメンズクラブの大会や例会に参加したり、活動のお手伝いをさせていただくようになったことが、私たちに今日の活動をもたらしてくれました。

出会い、信頼でつながることが、私自身、そして地域をも変えていく。志を共にするワイズメンズクラブの仲間、地域と共に生きる同志と出会うことができました。

街の再建が進む一方、それが必ずしも被災者の心の復興とは繋がっていない現状に、仙台 YMCA をはじめ現地で支援に携わる方々は、日々向き合っている。

石巻広域ワイズメンズクラブが取り組んでいる津波教え石建立事業は、震災で亡くなられた方への慰霊とその教訓を後世に伝えていくことを目的にしている。



商店街の中の YMCA 石巻支援センター



石巻市茨浜地区に建てられた津波教え石

3 東日本大震災緊急・復興支援募金報告

京都 YMCA では、全国の YMCA と連動して震災直後から被災者支援活動のための救援・復興募金を始め、会員や市民に呼びかける街頭募金及び窓口での募金の受付を行いました。その後も受付窓口での募金箱設置やお振込での募金継続して呼びかけました。

ご家族で 1,500 万円や、個人で 80 万円を寄付していただいた方をはじめとして、市民の皆様からのご協力、ワイズメンズクラブ、地元企業やグループなど多くの方から募金と復興への願いをお預かりしました。



募金期間

【第 1 期】 2011 年 3 月～ 4 月 【第 2 期】 2011 年 5 月～ 9 月
 【第 3 期】 2011 年 10 月～ 2012 年 3 月 【第 4 期】 2012 年 4 月～ 現在

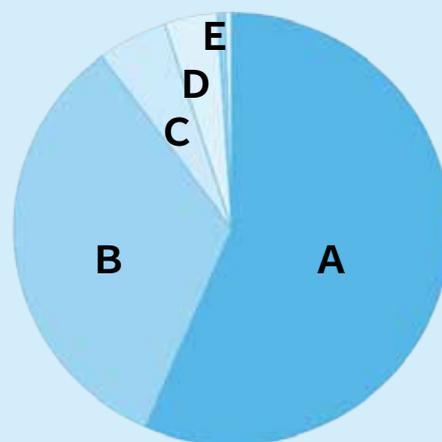
街頭募金

【第 1 回】 2011 年 3 月 27 日 京都 YMCA 会員が市内 8 ヶ所にて実施、参加者 215 名。
 【第 2 回】 2011 年 5 月 15 日 京都 YMCA スポーツクラスの子ども達にて実施。
 【第 3 回】 2011 年 6 月 5 日 京都 YMCA 会員にて実施。

募金収入

現在までに集められた募金額 **34,309,611 円**
 (2017 年 12 月末時点)

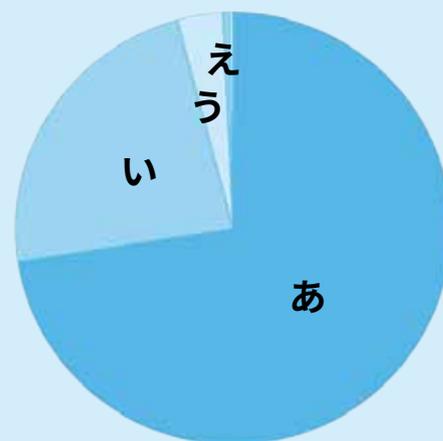
A : 個人、団体、法人の皆様からのご寄付	19,381,905 円
B : ワイズメンズクラブの皆様からのご寄付	11,430,137 円
C : 海外の団体より (パートナー YMCA およびワイズメンズクラブ、教会等)	1,787,263 円
D : 街頭および窓口募金	1,349,389 円
E : バザー、エコプラランター収益	185,170 円
その他、特定プログラムへの補助金 預金利息	175,000 円 747 円



募金使途

現在までの支出額 **32,360,640 円**
 (2017 年 12 月末時点)

あ : 日本 YMCA 同盟を通じた支援	23,476,117 円
い : 京都 YMCA が独自で行う支援	7,541,713 円
う : 被災地の YMCA を通して行う支援	1,095,698 円
え : 他団体を通して行う支援 (京都府災害ボランティアセンター、京都橘大学等)	153,786 円
その他、事務経費	93,326 円



あしがき

東日本大震災から7年がたちました。あの日私たちはテレビの映像を通してかつて見たこともないような大きな自然災害を目の当たりにし、この後どうなっていくのだろうという思いに駆られたことを覚えています。そして実際いろいろなことがあの時を境に変わりました。被災された方々を襲った変化はもちろんのこと、直接被災しなかった人々の生活や、運命や考え方も変えられた出来事でした。

また、東日本大震災後も日本各地で大地震を含む自然災害が相次ぎました。間近などころでは2016年4月の熊本県で起こった大きな地震も記憶に新しいところです。

世界各地で頻繁に起きる様々な自然災害は人々の心の中に自然への畏怖心と同時に、これからの世界に対しての漠然とした不安も抱かせるようになっていきます。

この未曾有の震災後、各地で大規模な自然災害が起きるたびに全国からボランティアが集まり、被災者支援のための活動が行われるようになりました。

阪神淡路大震災がこのようなボランティアの元年と言われますが、東日本大震災は、被災地域の広域性から、全国からさらには世界からもボランティアが集まる支援となりました。また、民間ボランティアと行政や企業や各種団体が協力して支援を行うようになったきっかけとなった出来事であったかもしれません。

この報告書にありますように京都 YMCA においても発災直後から支援活動に取り組みました。また、その活動を支えるために多くの方から募金をお預かりしました。自分たちには直接被災者支援をすることができないので、YMCA に託してという事で、ご家族で多額の寄附をしていただいた方もおられました。また小さな子どもたちも被災者支援のためという事で募金箱を持って街頭に立って募金活動をしてくれました。

さらに、多くのボランティアの方による協力を得て、被災地や京都での被災者支援活動を行いました。被災者支援活動は、全国の YMCA ネットワークを通して行われ、発災後当初はスタッフの派遣から始まりましたが、その後はボランティアビューロー専門委員会やワイズメンズクラブといった、京都 YMCA の会員活動の中で多くの支援活動が進められてきました。

2011年から2012年と続いた被災地へのボランティア派遣では、多くの一般市民の方々が集まり、バスに乗り被災地への支援活動に出かけました。そのボランティアを通して京都 YMCA につながり京都 YMCA の会員となった方もおられました。

これらの活動を通して多くの人びとや諸団体との関係やネットワークが生まれ、京都 YMCA でも京都府災害ボランティアセンターを始めとした地域の諸団体との連携強化や、新しい取り組みも生まれてきています。

例えば、京都において自分たちの町でこのような災害が起こったらどう行動すればよいのかということを考えるようになり、

会員活動の中から自発的に防災ワークショップと言った取り組みも始まってきました。まさにこのようなつながりと自発的な活動こそ現在 YMCA が進めているブランディングで目指しているポジティブネットの一つの姿かもしれません。

この震災の復興は未だなされた訳ではありません。被災地の福島では福島原発事故の対応がまだまだ続いており、その地に住む人々の生活が元通りに戻った訳でもありません。被災地での震災復興は今なお途上であることは確かです。したがって今後も被災者のことを覚えつつ、関わりは続けて行かなければならないと思っています。

今回この報告書を出すことで京都 YMCA がこれまで行ってきた被災者支援活動の一つの区切りとして、これまで関係していただいた皆様にご報告するとともに、この活動に関わりご協力いただいたすべての皆様へ感謝申し上げます。



公益財団法人 京都 YMCA
総主事 加藤 俊明

報告書作成タスクチーム

宇佐美賢一（京都 YMCA 会員）

鈴木 将樹（京都 YMCA 会員）

人見 晃弘（京都 YMCA 会員）

上野 貴子（京都 YMCA 職員）

本書作成にご協力くださった皆様（順不同・敬称略）

岩佐 清

岡崎 詳子

日野 峻

船木 順司

伊藤 剛士

石巻広域ワイズメンズクラブ

公益財団法人 仙台 YMCA

京都 YMCA ボランティアビューロー専門委員会



全国のYMCAと京都YMCA

出会いが、ひとりひとりを変えていく。
そして、ひとりひとりが「よくなる」連鎖は、社会や世界を変えていく。

YMCA (Young Men's Christian Association) は、1844年イギリス・ロンドンで、「社会をよりよいものに変えていきたい」と願う1人の青年によって創られたのがその始まりです。その願いへの賛同は地域や国を超えて広がり、現在、世界119の国と地域に広がる国際的非営利団体 (N GO/N PO) となりました。日本には、35ヶ所の都市YMCA、37の大学・高校に学生YMCAがあります。

YMCAは、世界とつながり地域に根差した唯一無二の団体として「よくなる」の連鎖で社会をや世界を変えていくため、互いを認め合い、高め合うことができる、人々の善意や前向きな気持ちでつながるネットワークを「ポジティブネット」と名付け、大切に育んでいます。

京都YMCAは、日本で5番目の都市YMCAとして1889年に京都の地で誕生しました。以来、地域に根差した「みつかる。つながる。よくなっていく。」場所として、様々な奉仕活動、教育活動を行っています。2011年には、公益財団法人として京都府より認可を受けました。

公益財団法人 京都YMCA

〒604-8083 京都市中京区三条通柳馬場東入中之町2 TEL: 075-231-4388 FAX: 075-251-0970
URL: <http://kyotoymca.or.jp>